

# 2021年3月期 決算説明資料

2021年5月25日  
株式会社エヌ・シー・エヌ

- 1. 会社概要・事業概要**
- 2. 連結業績ハイライト**
- 3. 2021年3月期のトピックス**
- 4. 2022年3月期 事業計画**

# 1. 会社概要・事業概要

**日本に安心・安全な木構造を普及させる。**

**日本に資産価値のある住宅を提供する仕組みをつくる。**

# 日本に安心・安全な木構造を普及させる。

## 課題 1 : 日本の建築基準法では木造住宅は構造計算が義務化されていない。

建築基準法 第20条 4号特例

確認申請に構造計算が必要な建物

構造の種別	規模（階数または延べ床面積）
木造	<ul style="list-style-type: none"><li>① 階数が<b>3</b>以上の建築物</li><li>② 延べ床が<b>500m<sup>2</sup></b>を超える建築物</li><li>③ 高さが<b>13m</b>を超える建築物</li><li>④ 軒の高さが<b>9m</b>を超える建築物</li></ul>



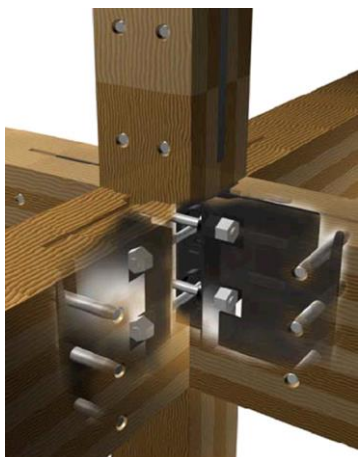
出所：新日本法規出版「確認申請MEMO」

# 地震で壊れない家をつくる。

## 当社独自の木造建築用の建築システム「SE構法」を開発

鉄骨造やRC造において主流だったラーメン構法を木造住宅に取り入れ、安全かつ便利に利用できるようにシステム化

SE構法による構造躯体と部材の接合部



SE構法の特徴

すべての建物に**構造計算**をおこなうこと

構造品質の高い**集成材**を採用していること

接合部に独自開発した**SE金物**を使用すること

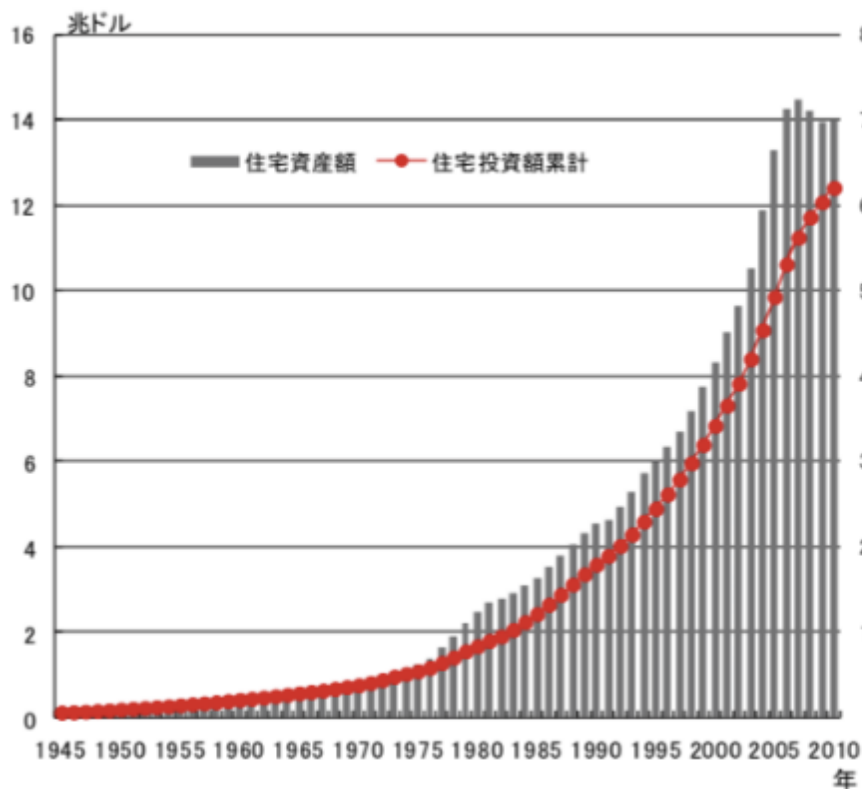
集成材とSE金物により  
**高い耐震性と大空間が実現**すること

**構造設計から部材供給・施工・検査・性能保証まで一括管理できるシステム**であること

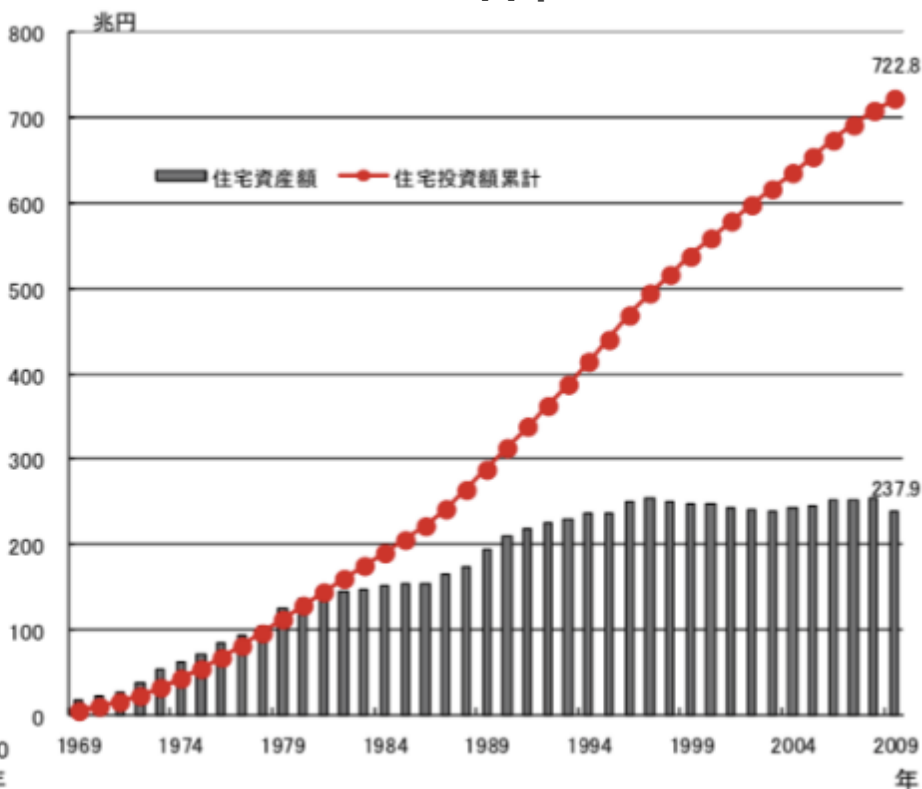
## 課題 2 : 日本の木造中古住宅は欧米に比べて再販価値が低い。

住宅投資累計額と住宅資産額

### アメリカ



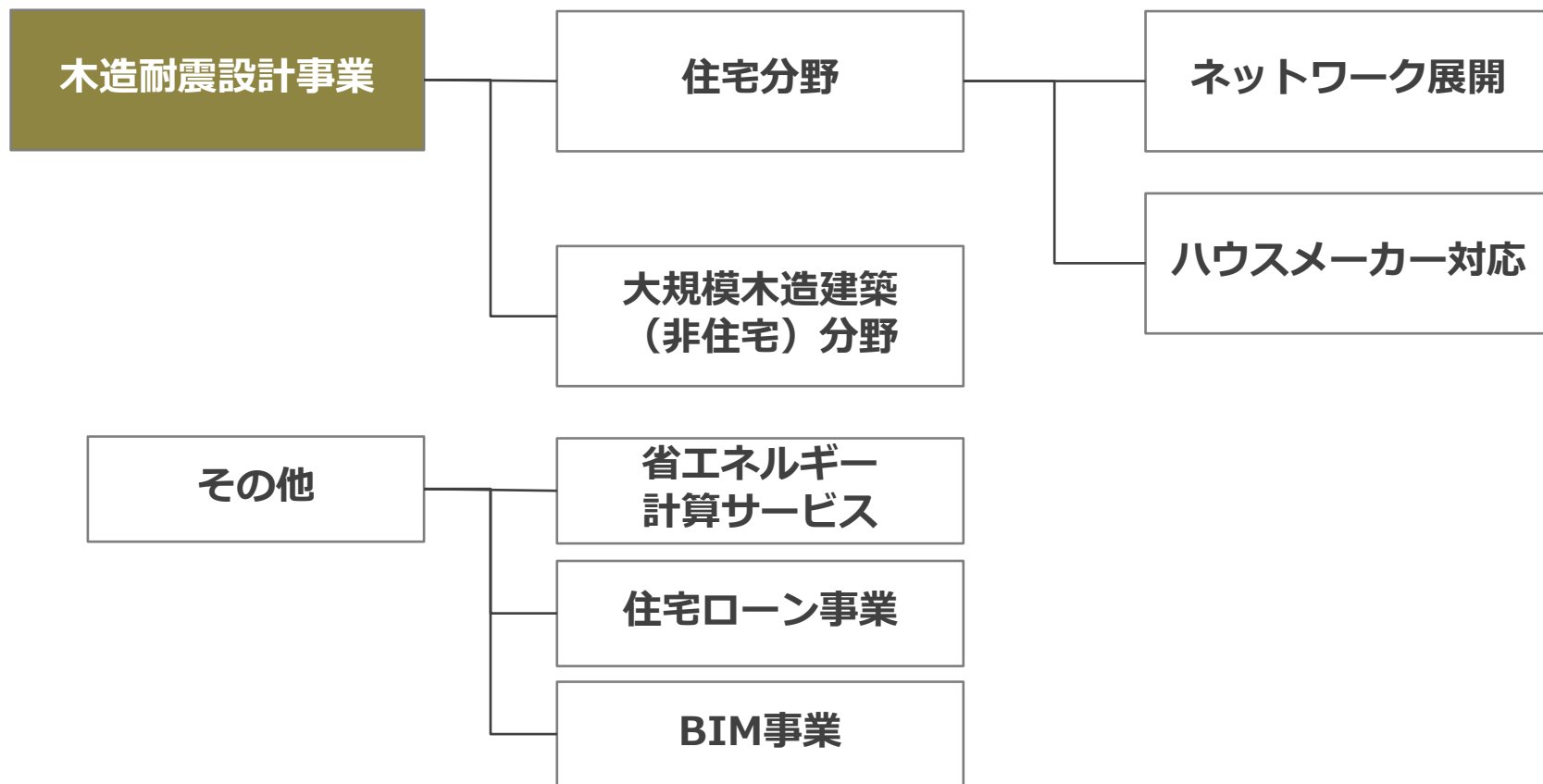
### 日本



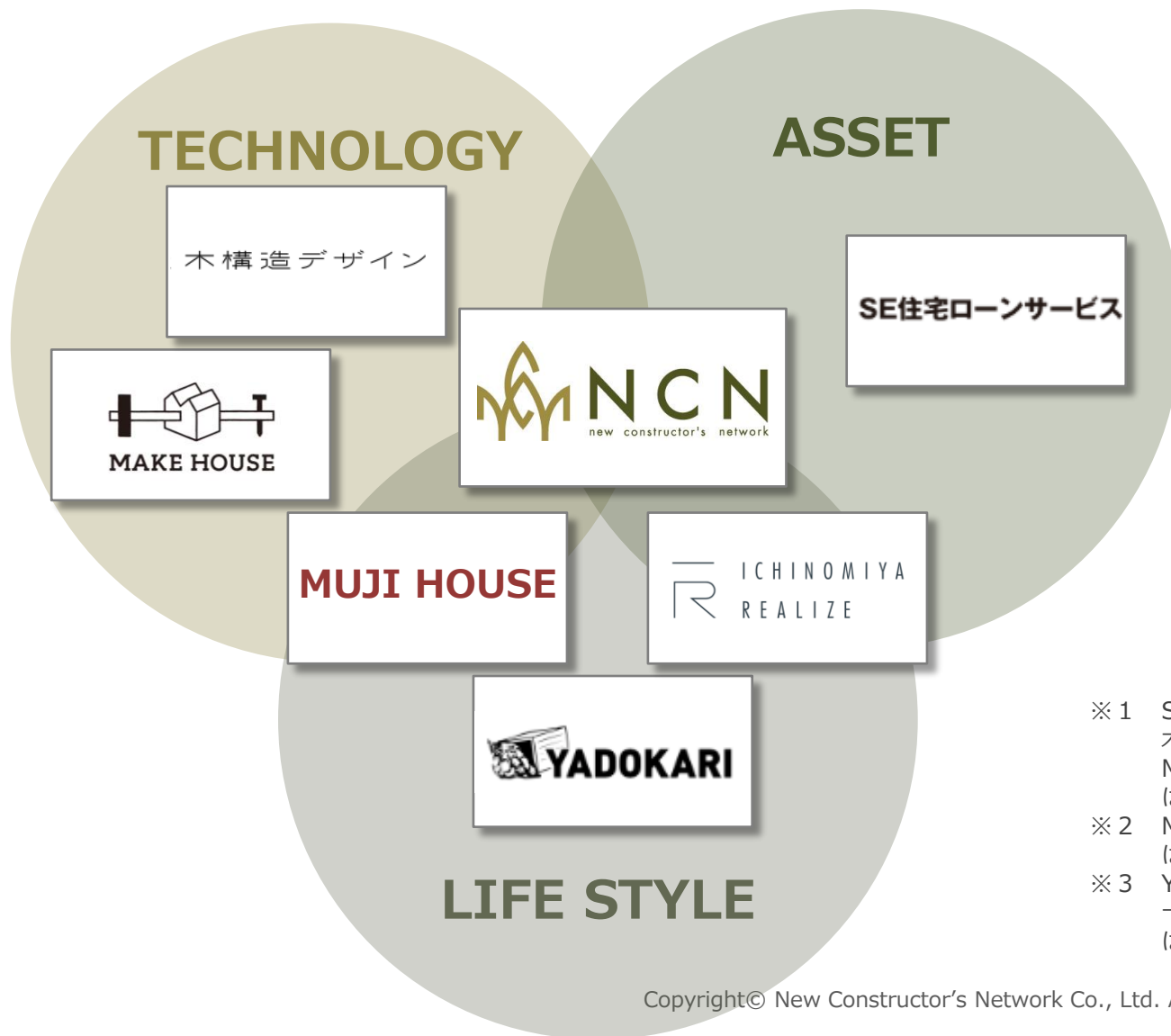
出所：野村資本市場研究所「我が国の本格的なリバース・モーゲージの普及に向けて」

## 主たる事業として「木造耐震設計事業」を展開

木造耐震設計事業は、「住宅分野」と「大規模木造建築（非住宅）分野」に分類でき、さらに住宅分野は「ネットワーク展開」と「ハウスメーカー対応」の2つの路線で展開







- ※1 SE住宅ローンサービス  
木構造デザイン  
MAKEHOUSE  
は連結子会社
- ※2 MUJIHOUSE  
は持分法適用会社
- ※3 YADOKARI  
一宮リアライズ  
は出資先グループ

## 2. 連結業績ハイライト

## 2021年3月期 連結業績

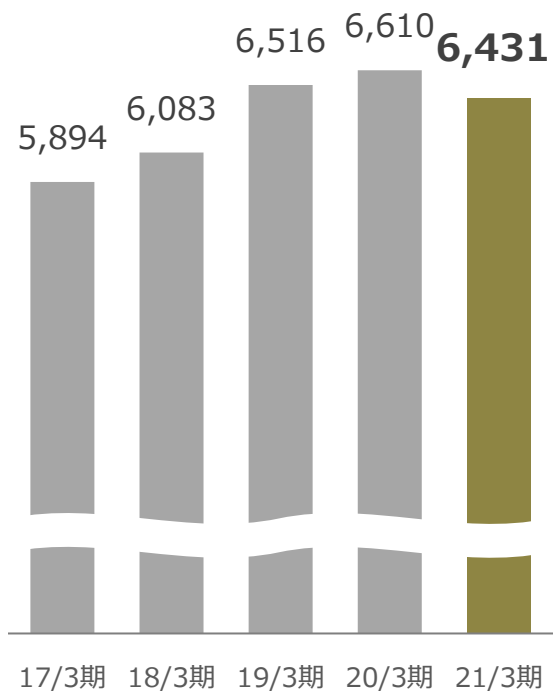
売上は減少（前期比△2.7%）したものの、売上総利益以下の段階利益は前期を上回った。

	21/3期	20/3期	増減	増減率 (百万円)
売上高	6,431	6,610	△178	△2.7%
売上総利益	1,613	1,550	+63	+4.1%
営業利益	282	229	+53	+23.3%
経常利益	323	258	+64	+25.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	181	+43	+24.1%
1株当たり 当期純利益(円)※	70.10	56.62	+13.48	+23.8%

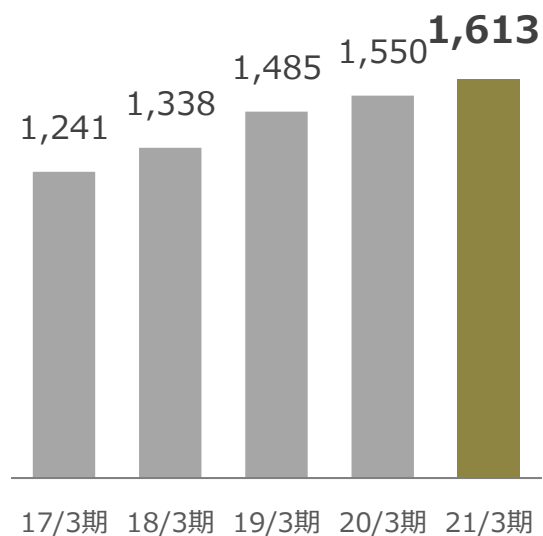
※ 1株当たり当期純利益の算出において分母となる期中平均株式数は、20/3期が3,206千株、21/3期が3,213千株となります。

売上高は減少したものの、経常利益は過去最高益となった。

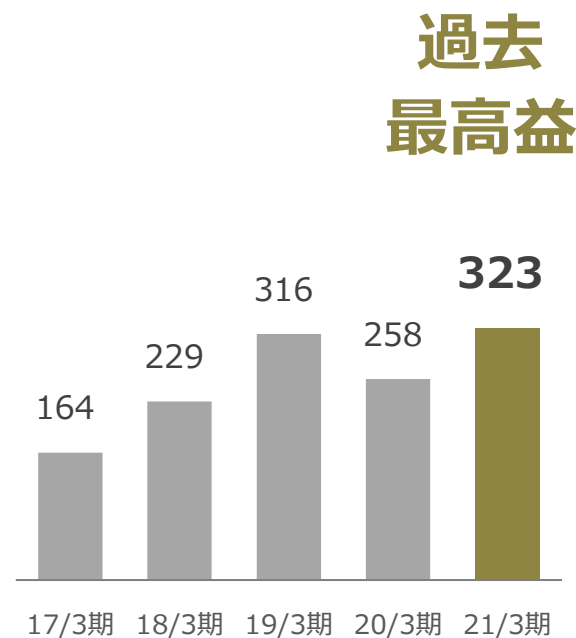
## 売上高



## 売上総利益

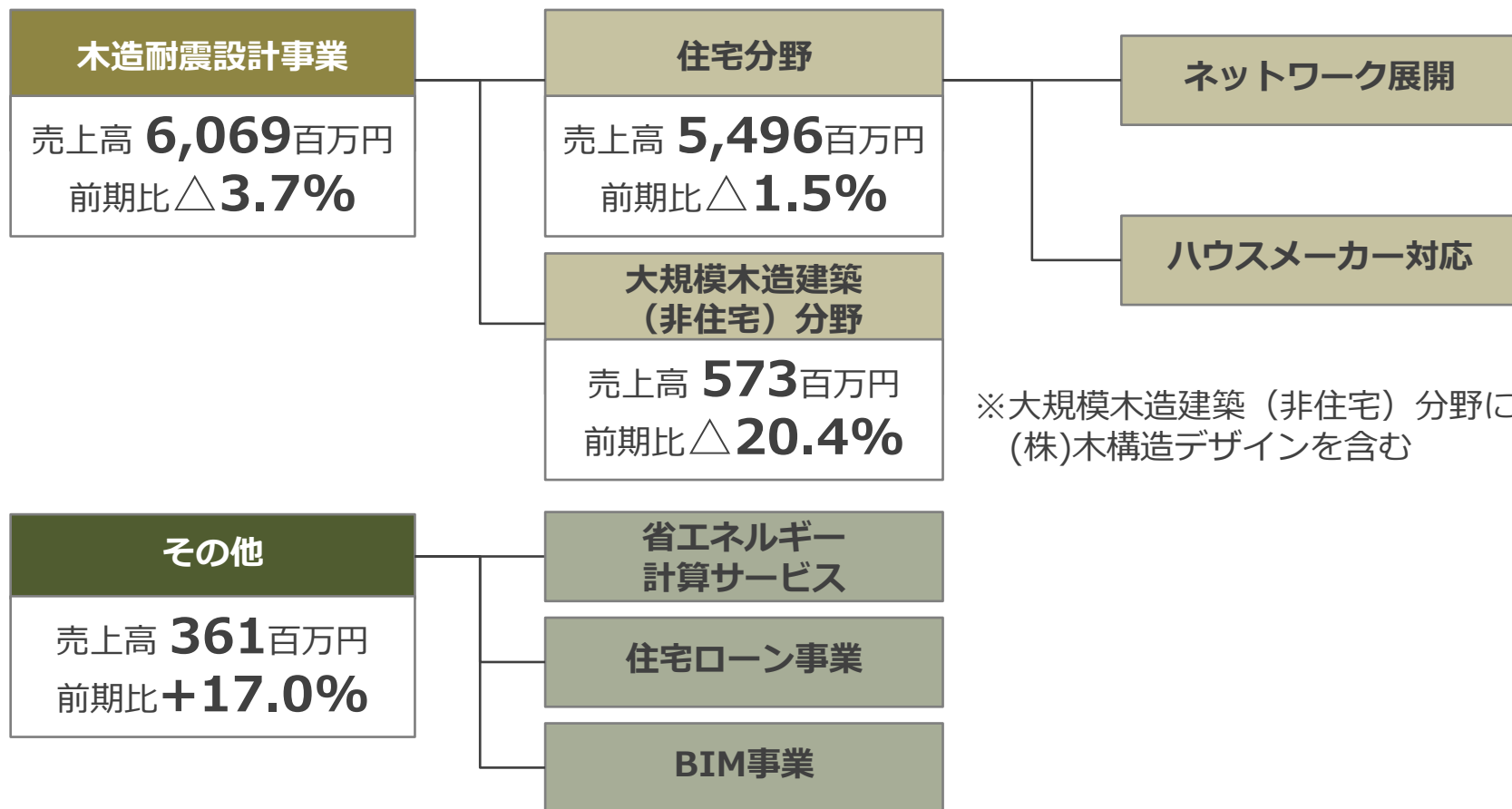


## 経常利益



# 事業セグメントとセグメント売上高

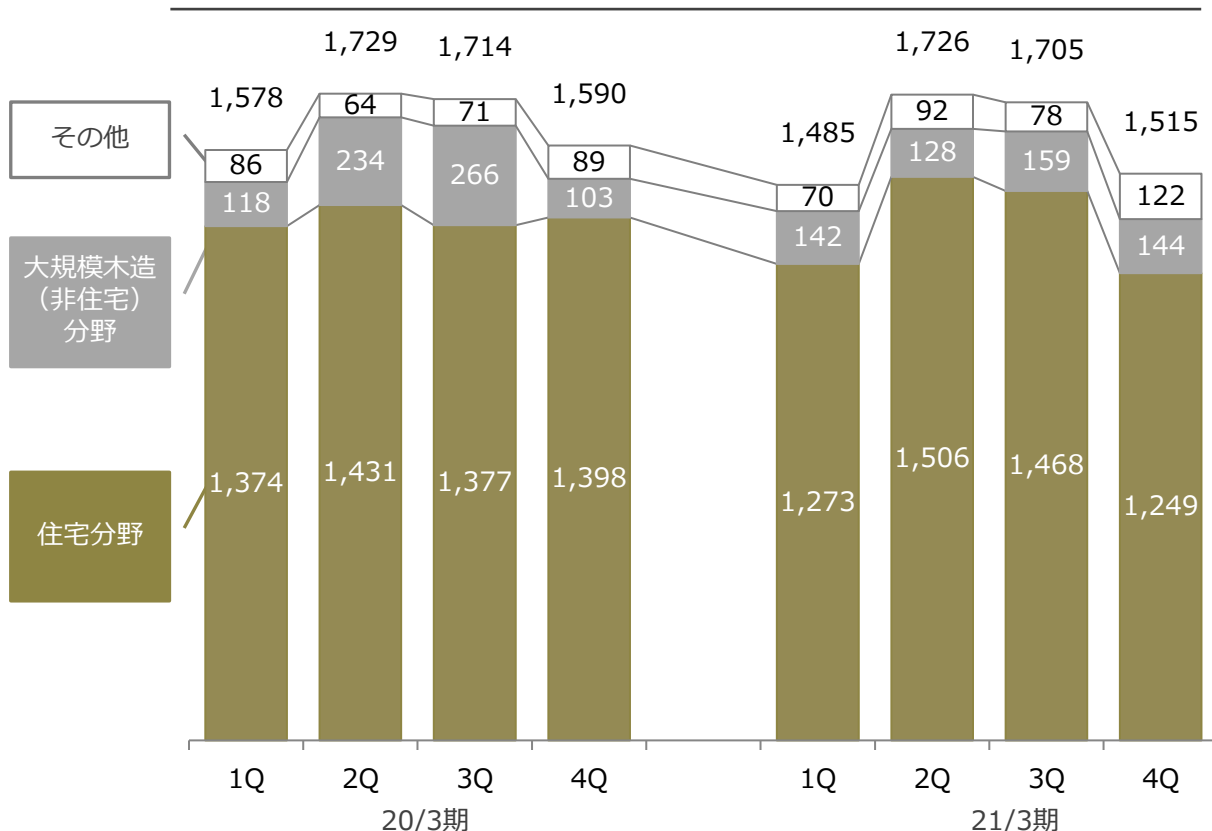
- 売上高が前期を下回った主な要因は、大規模木造建築（非住宅）分野が前期比 $\Delta 20.4\%$ となったこと。
- 住宅分野も前期比 $\Delta 1.5\%$ となり、木造耐震設計事業では、前期比 $\Delta 3.7\%$ となった。



# セグメント別売上高の四半期推移

- 住宅分野は緊急事態宣言が発令された1Q、4Qの売上高が大きく減少。
- 大規模木造建築分野は例年売上が増加する2Q、3Qが前年を大きく下回ったことが通期で売上が減少した主要因。

セグメント別売上高の四半期推移（百万円）

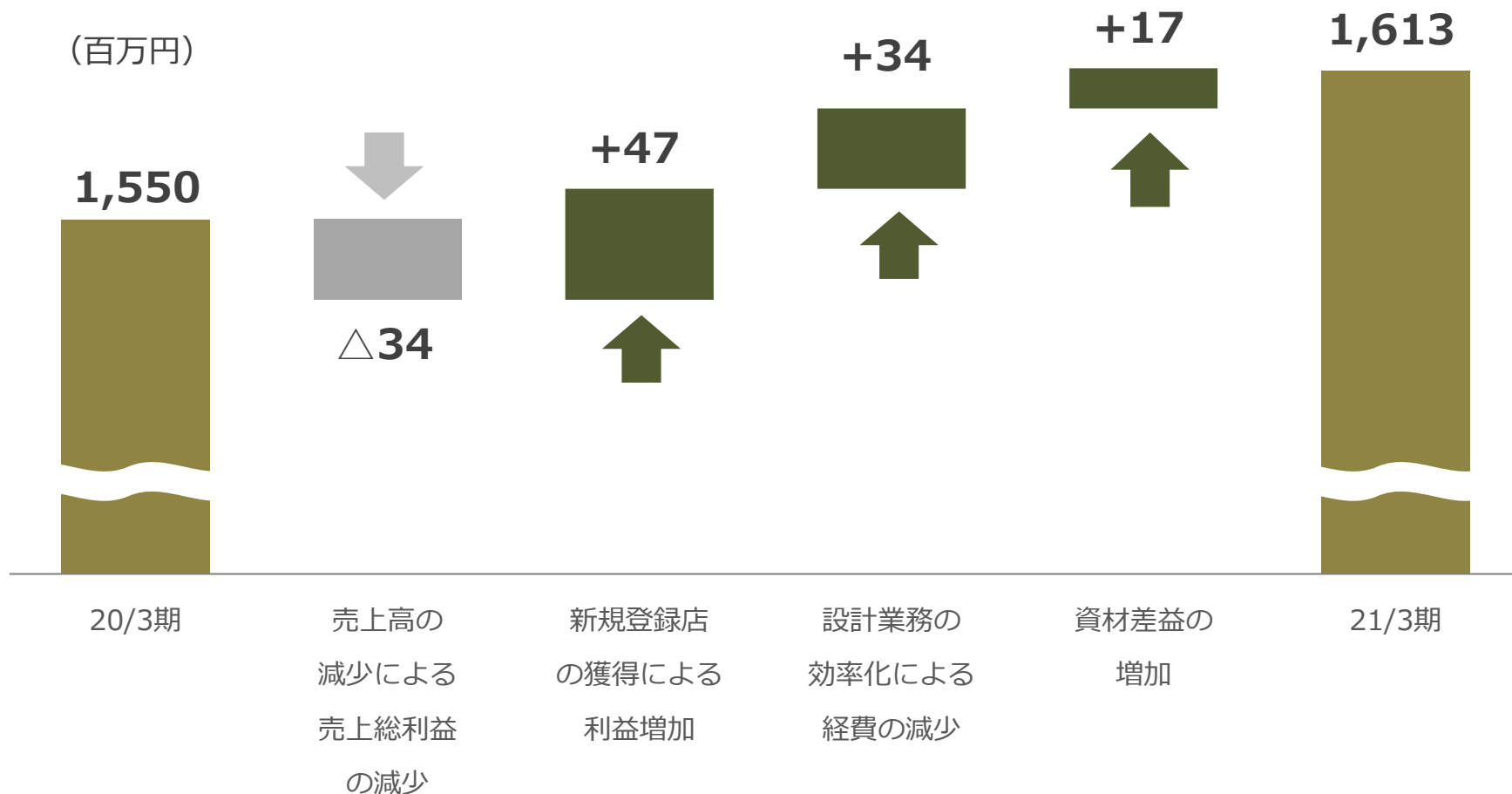


四半期別の状況

1Q	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により、住宅分野の売上高が大きく減少</li> </ul>
2Q 3Q	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅分野は前年を上回った</li> <li>一方、大規模木造分野は着工延期等の影響で前年を大きく下回った</li> </ul>
4Q	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急事態宣言の発令により、住宅分野の売上高が大きく減少</li> <li>大規模木造分野は前年を上回り回復傾向</li> </ul>

# 売上総利益の増減要因

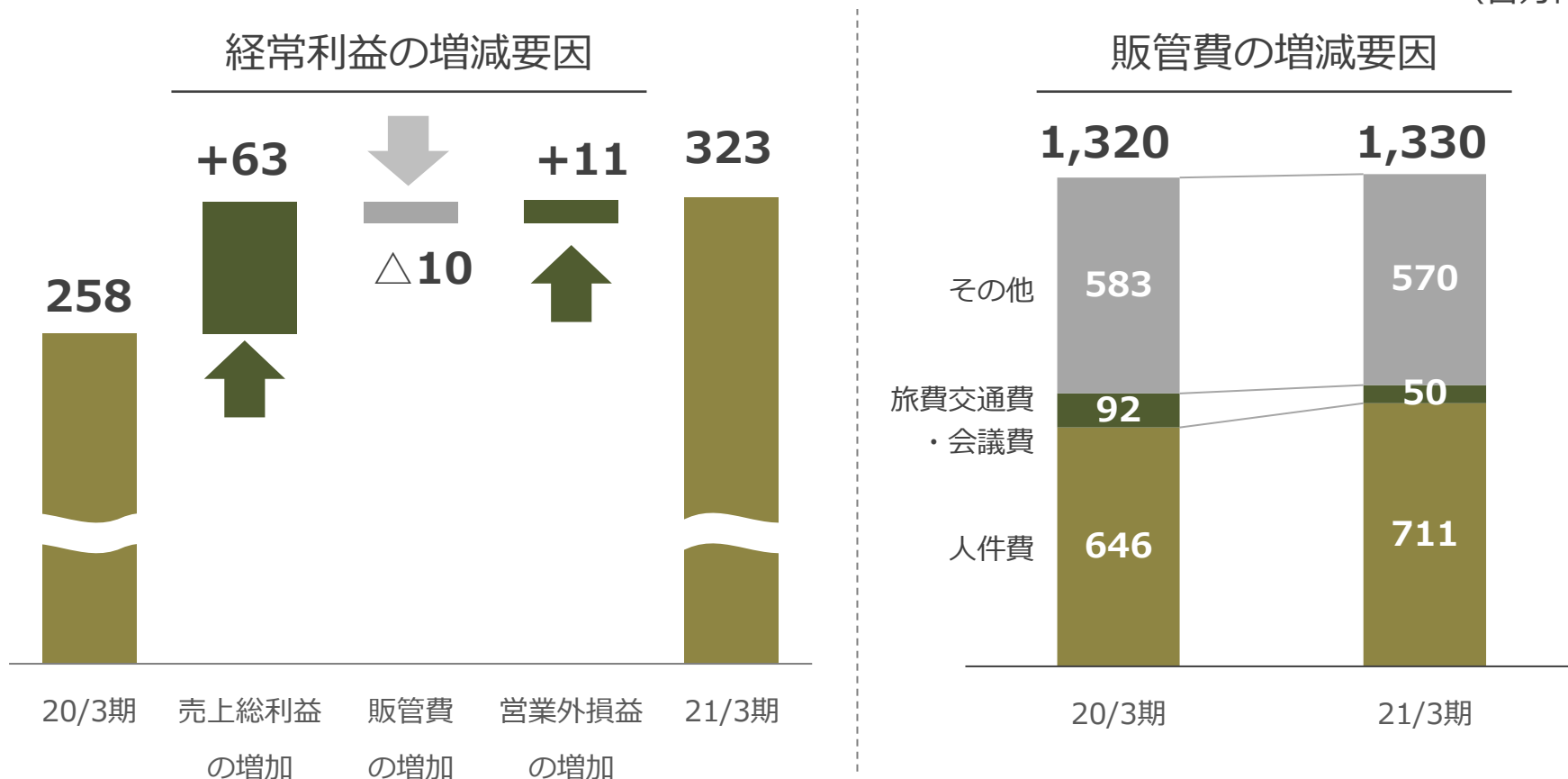
売上総利益が前期を上回った主な要因は、新規登録施工店の獲得による利益増加、設計業務の効率化による経費減少、資材差益の増加の3点。



# 経常利益の増減要因

- 経常利益の増加は、売上総利益と営業外損益の増加が主な要因。
- 販管費は、人件費が大きく増加したものの、DXによる営業の効率化で、旅費交通費・会議費が減少したことにより微増にとどまった。

(百万円)





# 貸借対照表

	21/3期	20/3期	増減	(百万円)
流動資産	4,321	4,043	+277	現金及び預金+298
固定資産	782	669	+112	無形固定資産+70 投資有価証券+30
<b>資産合計</b>	<b>5,103</b>	<b>4,713</b>	<b>+390</b>	
流動負債	2,410	2,215	+195	買掛金等 +129 未払法人税等+41
固定負債	700	650	+49	預り保証金+48
<b>負債合計</b>	<b>3,110</b>	<b>2,865</b>	<b>+244</b>	
資本金	390	390	±0	
資本剰余金	263	263	±0	
利益剰余金	1,308	1,167	+141	
その他	29	26	+3	
<b>純資産合計</b>	<b>1,993</b>	<b>1,847</b>	<b>+145</b>	
自己資本比率	38.1%	38.3%	-	
1株当たり 純資産額 (円)	605.05	561.96	+43.09	

# CF計算書

(百万円)

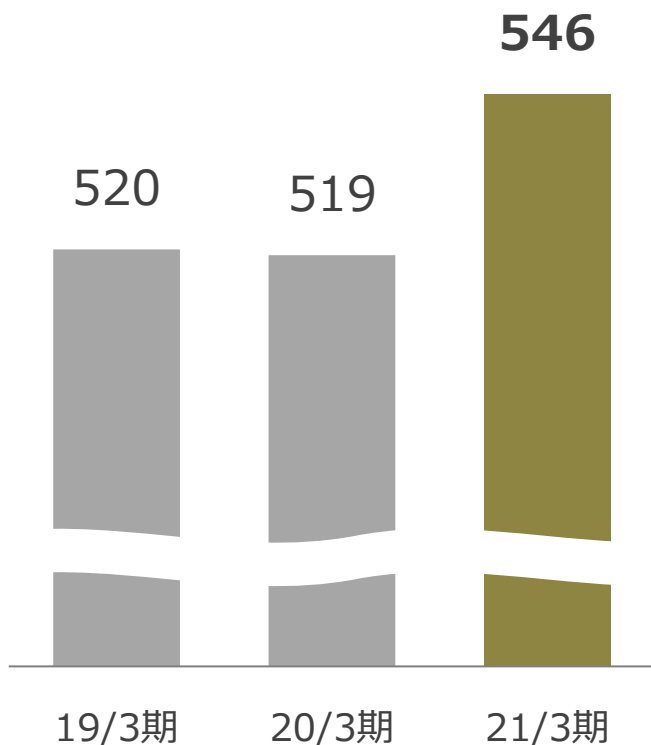
	21/3期	20/3期	増減	21/3期の主な収入・支出
営業CF	471	74	+397	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税引前当期純利益 +313</li> <li>・ 減価償却費 +54</li> <li>・ 仕入債務の増加 +85</li> <li>・ 新規登録店預り金 +40</li> </ul>
投資CF	△ 90	△ 84	△ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスレイアウト費用 △11</li> <li>・ システム投資による支出 △75</li> </ul>
財務CF	△ 82	△ 53	△ 28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配当金の支払 △83</li> </ul>
現金等の 期末残高	2,905	2,607	+298	

### 3. 2021年3月期のトピックス

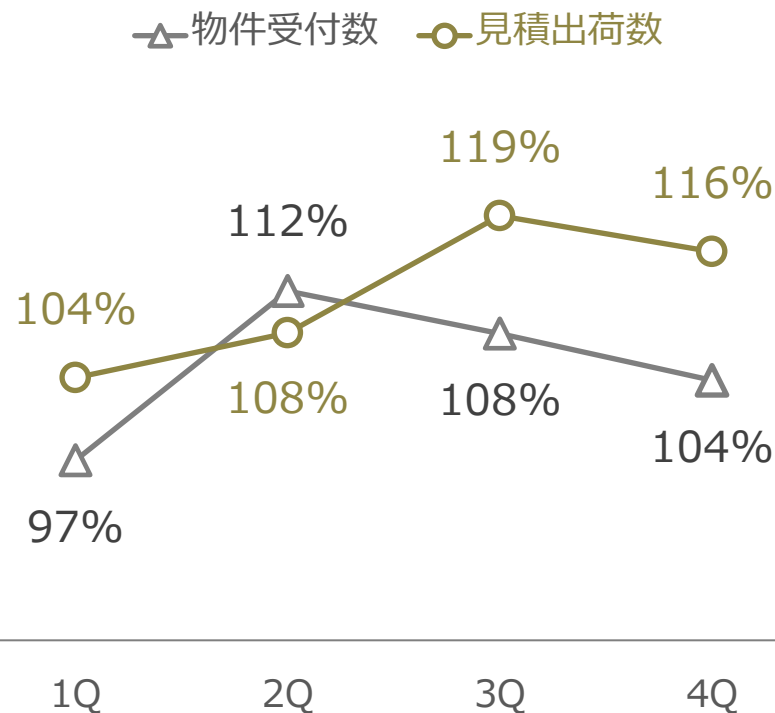
# 登録施工店の増加

- 新規登録活動の強化により、登録施工店は546社まで増加。
- 登録施工店の増加により、物件受付数・見積出荷数も堅調に推移。

### 登録施工店数（社）



### 物件受付数・見積出荷数推移（前期比）

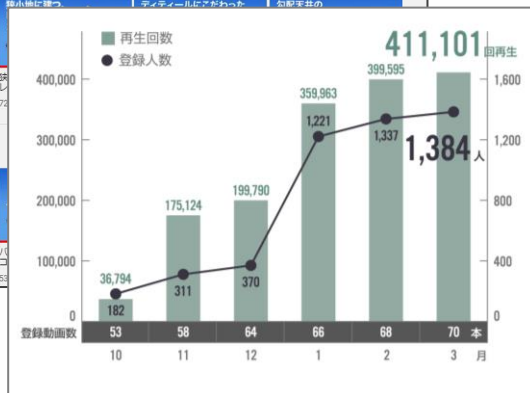


# [DXの推進]

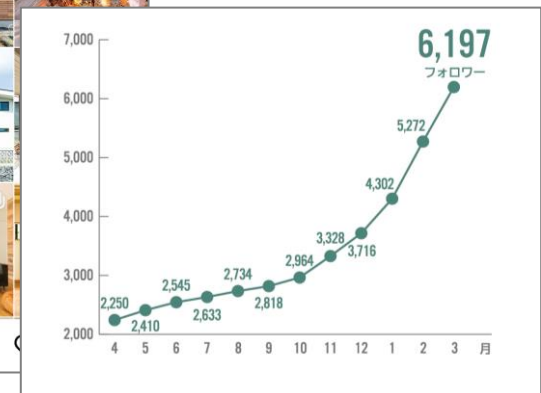
## デジタル住宅展示場／Instagram

- Withコロナ時代の新しい住宅展示場のかたちとして、動画を活用したデジタル住宅展示場をYouTubeチャンネルとしてオープン（2020年10月）。
- 重量木骨の家のInstagramアカウントもフォロワーが順調に増加。

### デジタル住宅展示場



### 重量木骨の家 Instagram

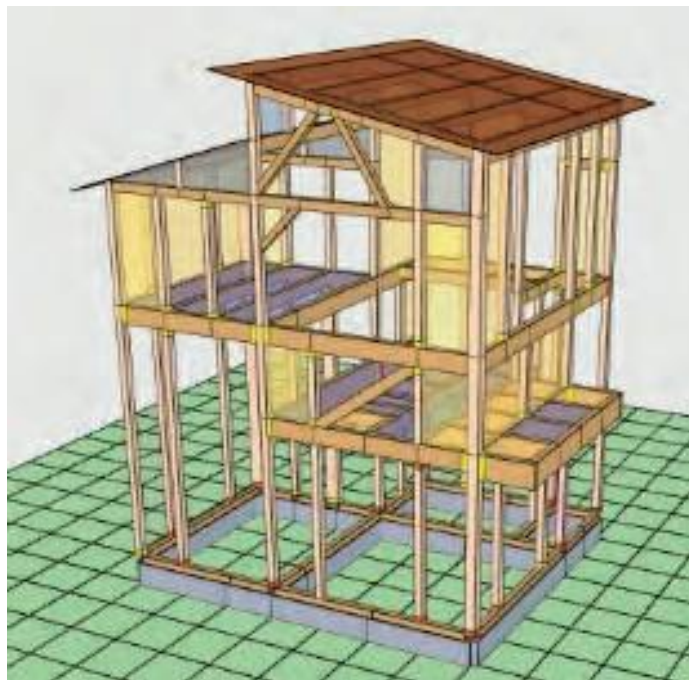


# [DXの推進]

## 住宅性能シミュレーションのサービス拡充

プラン検討の段階で、耐震性能や住宅性能を報告書として可視化することで安心・安全を早期に提示すべく、住宅性能シミュレーションサービスを開始

### 耐震シミュレーション



阪神淡路大震災



東日本大震災



熊本地震

## [非住宅分野の取り組み]

# 中大規模専門のプレカット工場ネットワークを形成



ゼネコン担当者・設計事務所における課題は？

- ① 設計事務所・ゼネコンは、どこに加工を頼むかわからない
- ② プレカット工場によって加工できるディテールが大きく異なる
- ③ 加工可能寸法が構法がわかりづらい



木構造デザインがおこなうこと

- ポータルサイトの設立・相談窓口の一本化を行い、設計事務所・ゼネコンにわかりやすい木構造加工・供給の仕組みを構築する。
- 「全国対応」「在来軸組工法、2×4工法、CLT構法」に対応したマッチングサービスを行う。

## 2021年3月期18社のプレカット工場ネットワークを形成

# [非住宅分野の取り組み] プレカット工場ネットワーク

プレカット工場ネットワークの拡大により、木造非住宅物件の生産体制を強化

## 入会プレカット工場と加工実績

エリア	ネットワーク工場
東北	ティンバラム
	けせんプレカット
関東	ハイビック
	タツミ
	ランバーテック
	三井ホームコンポーネント
	エヌ・シー・エヌ
中部	セブン工業
	山西
	サンウッド
	エム・エイチ・シー・ランバー
関西	岡本銘木店
中国	銘建工業
	院庄林業
四国	北米産業
九州	ワイテック
	原田木材
	ランバー宮崎

入会プレカット工場

**18**社/約670社



全国の加工実績に  
占める割合※

**14%**以上

- ※ 各社の加工実績は当社調べ
- ※ 全国の年間加工実績（約1,300万坪）は、新設住宅着工数に住宅1棟あたりの平均坪数を乗じて当社で算出



[MUJI HOUSE]

新商品「陽の家」グッドデザイン賞受賞



# [ウッドショック]

2021年4月頃から日本で建築用木材の不足が目立ち始め、5月以降、価格が急上昇。木材不足により工事の遅延などが起こり始めた。

## ウッドショックの原因

1. アメリカの住宅市況が好調

2. ヨーロッパ諸国の木材需要拡大

3. 中国の景気回復



## ウッドショックの結果

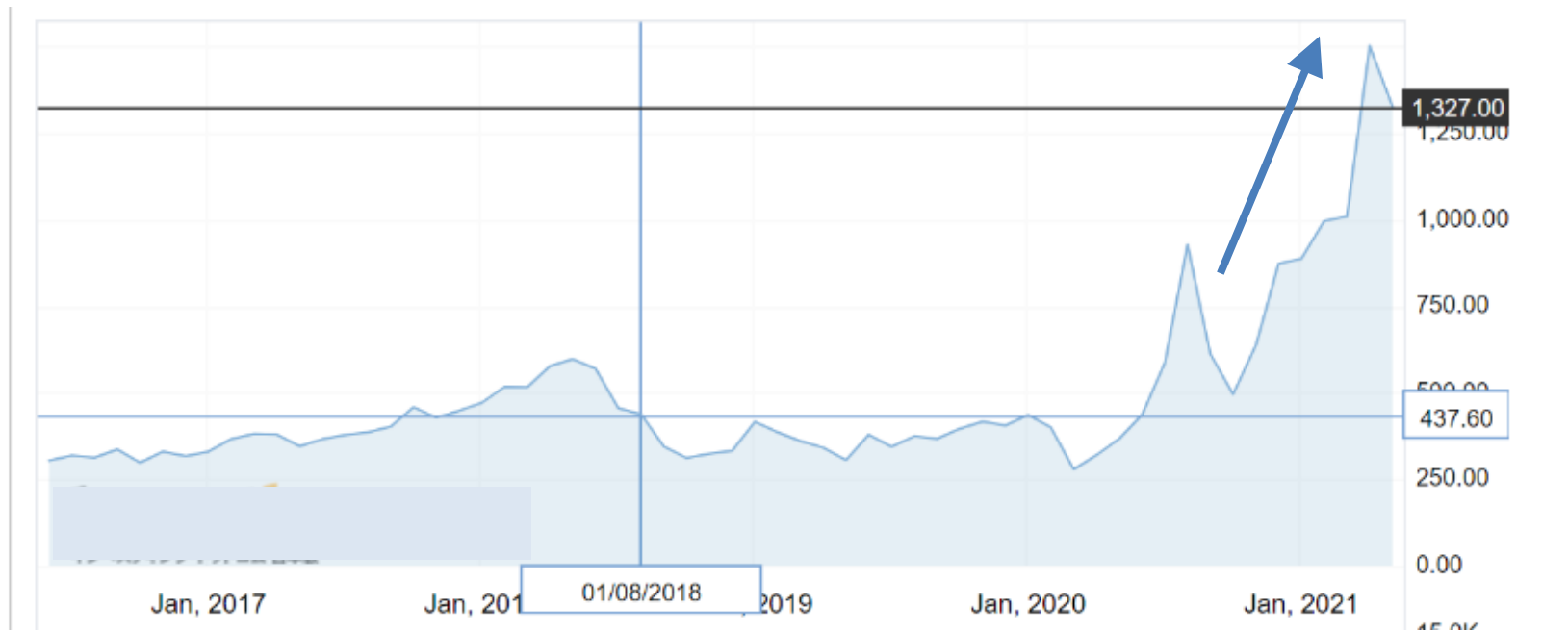
輸入木材の不足

木材価格の高騰

# [ウッドショック] アメリカの木材市況の高騰

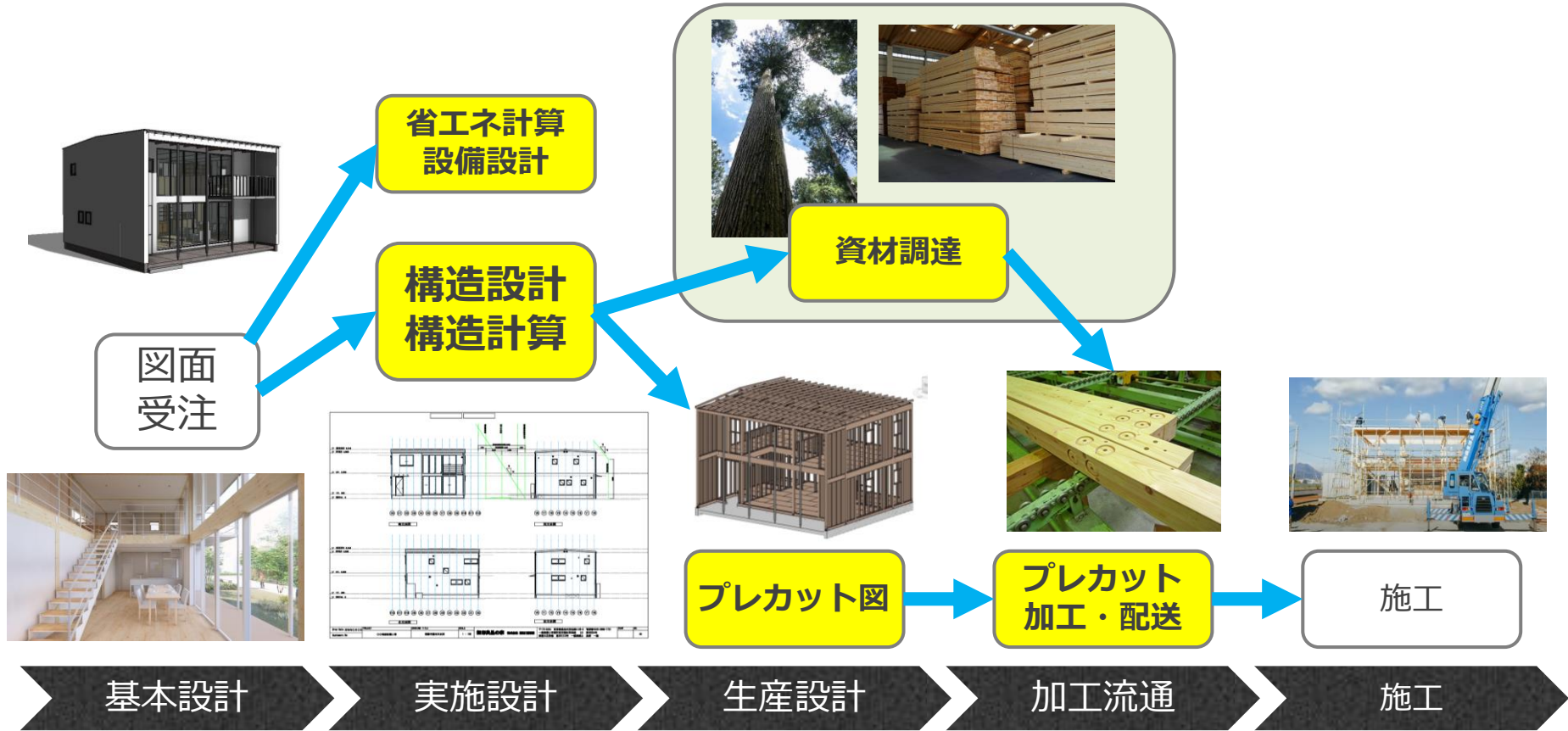
コロナ禍で自宅待機の結果、住宅投資が増加。

アメリカのランバー材（ツーバイフォー材）の相場<5年間の推移>



# [ウッドショック] 安定供給を可能とするサプライチェーン

構造設計を起点とした資材調達・施工までの一貫した  
サプライチェーンマネジメントで正確な資材調達を可能にしている



※ 構造用集成材はすべて国内メーカーから調達しており、  
現在供給遅延は発生していない

## 安定供給のための取り組み

### ① サプライチェーンの強化

- ① 1. プレカット工場とのシステム連携
2. 構造計算と連動した発注システムを強化

### ② 国産材利用の促進

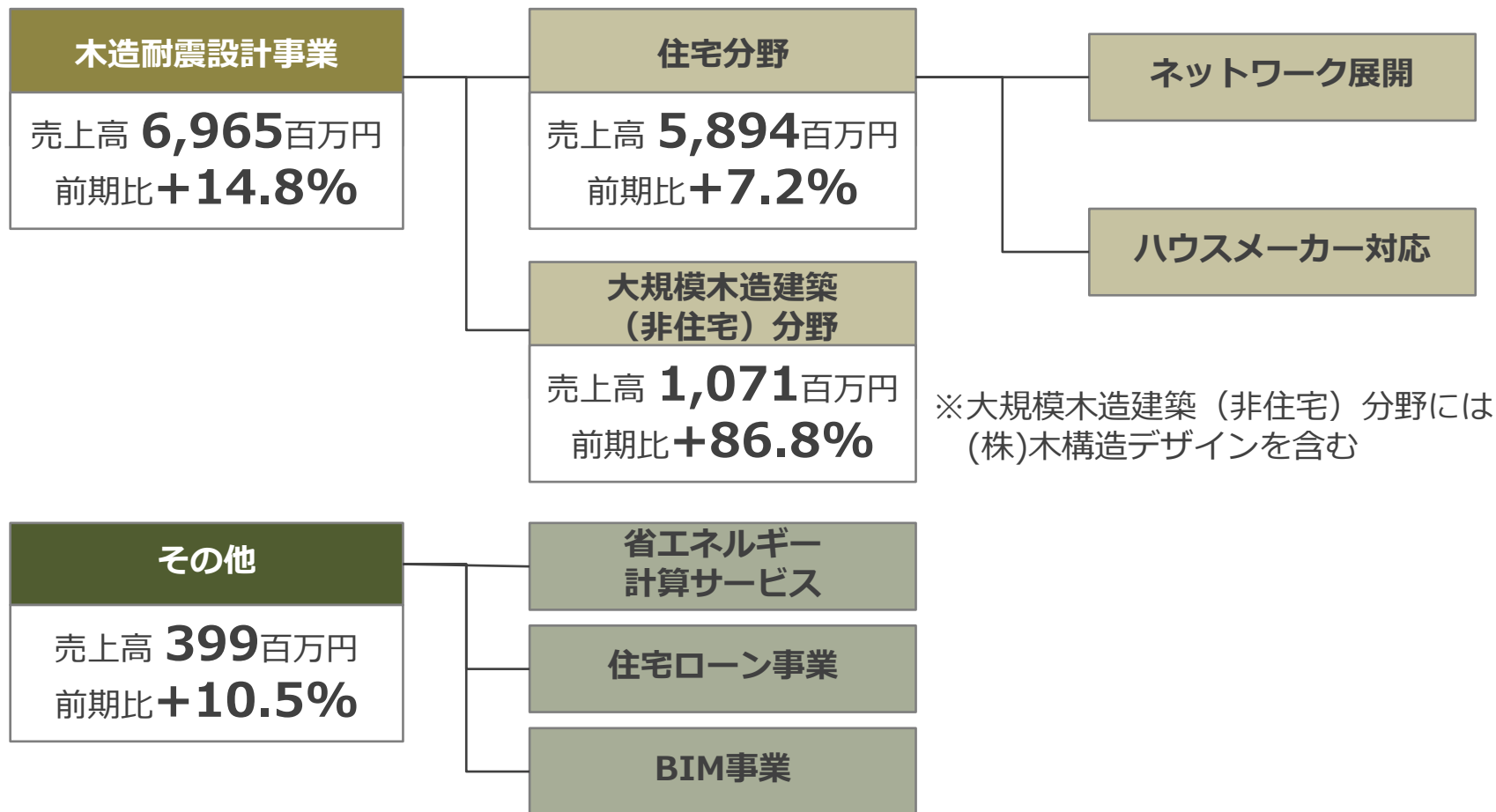
- ② 1. 国産材の利用率30%
2. SE構法における杉材等の技術評定取得済（2020年9月）  
→ 国産材比率をさらに上げる計画は進行中

## 4. 2022年3月期 事業計画

# 2022年3月期 通期連結見通し

(百万円)	22/3期 見通し	21/3期 実績	増減	増減率
売上高	<b>7,365</b>	6,431	+934	+14.5%
売上総利益	<b>1,938</b>	1,613	+325	+20.1%
販管費	<b>1,736</b>	1,330	+406	+30.5%
営業利益	<b>202</b>	282	△81	△28.6%
経常利益	<b>257</b>	323	△66	△20.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>200</b>	225	△25	△11.1%
年間配当金 (円)	<b>28.00</b>	28.00	-	-

# 通期連結見通し 事業セグメントとセグメント売上高





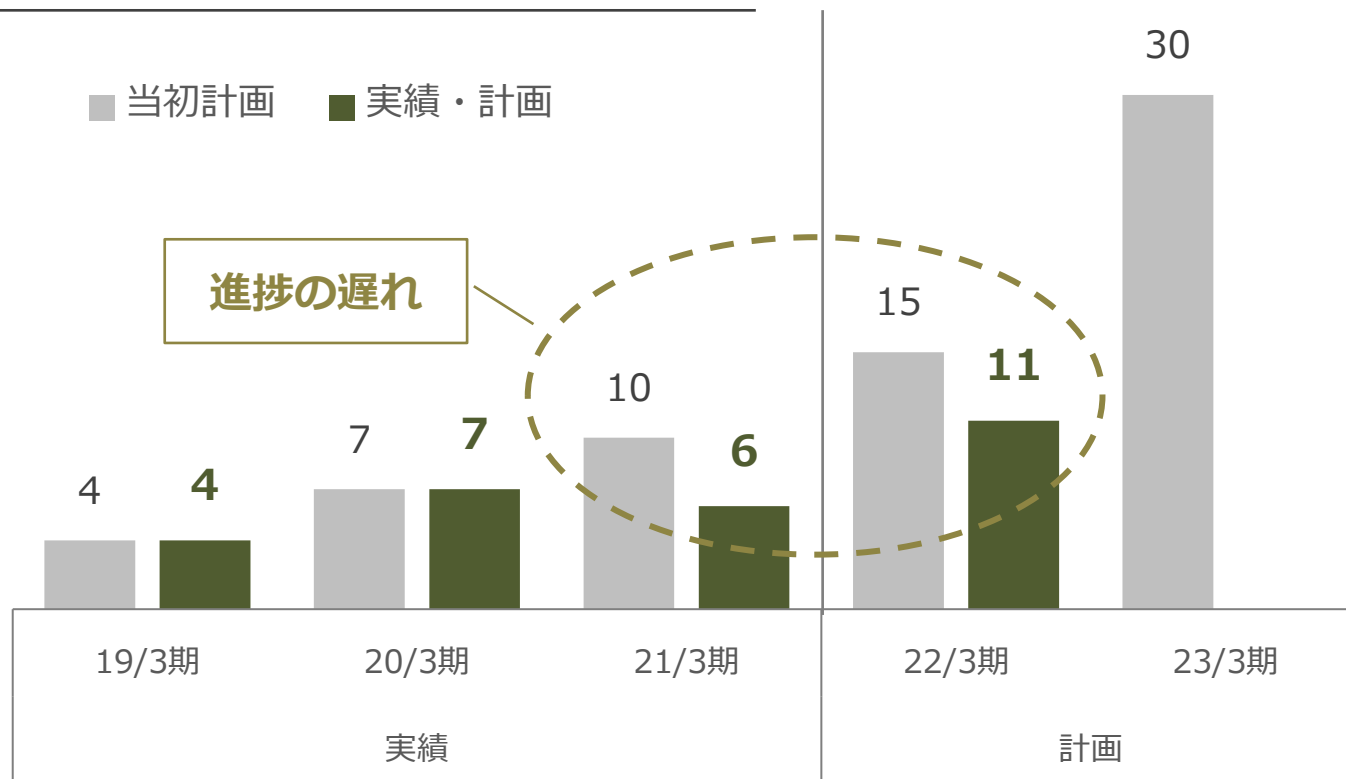
## 成長分野への投資

- ① 大規模木造建築（非住宅）分野
- ② BIM事業
- ③ R&Dセンター

# [①大規模木造建築（非住宅）分野] 成長計画

非住宅分野は、新型コロナウイルス感染症の影響により公共工事の大幅な遅延やプロジェクトの見直しが発生し、当初計画に比べて進捗が大きく遅れている。

### 非住宅分野の成長計画と実績（億円）



## 人材の獲得強化

- ① ✓ 大規模木造の構造設計者や、加工図・プレカットデータの作成者の不足に対応

## プレカット工場ネットワークの拡大

- ② ✓ 木造非住宅分野の生産能力を拡充する






## 積極的なプロモーションによる認知度向上

- ③ ✓ (株)木構造デザインによる大規模木造（非住宅）物件の引き合いを増やす

# [②BIM事業]

## BIMの普及状況（海外）

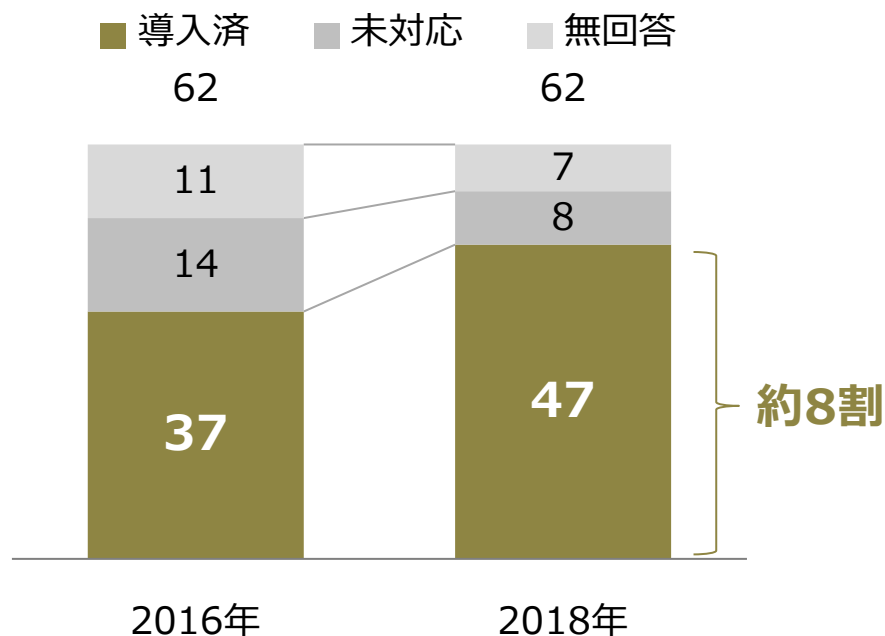
世界各国でBIM導入義務化への取り組みが推進されており、アメリカでは2012年時点で建設会社の約7割がBIMを導入済

アメリカ	シンガポール	イギリス	韓国	中国
				
2012年 ✓ 建設会社におけるBIM導入率が7割程度となる ✓ 土木分野においてもBIM活用率が5割に達する	2015年 ✓ 建築確認申請対象となる建物の約8割でBIM導入済	2013年 ✓ 2025年までにさらにBIMを活用し建築事業におけるコストを33%削減、工期を50%短縮を目標として定めた「Construction 2025」を発表	2012年 ✓ 建設会社のBIM導入率が65%となる。  2016年 ✓ 建築、土木問わず全ての調達庁発注案件はBIM採用	2007年 ✓ 建設部が特急ゼネコンに対して情報化要求  2012年 ✓ 特急ゼネコン情報化完了

# 【②BIM事業】 BIMの普及状況（国内）

国内ゼネコンにおけるBIMの導入率は約8割まで上昇（2018年時点）してきているものの、木造分野においては導入率が低くデータ不在

### ゼネコンでのBIMの導入状況（社）



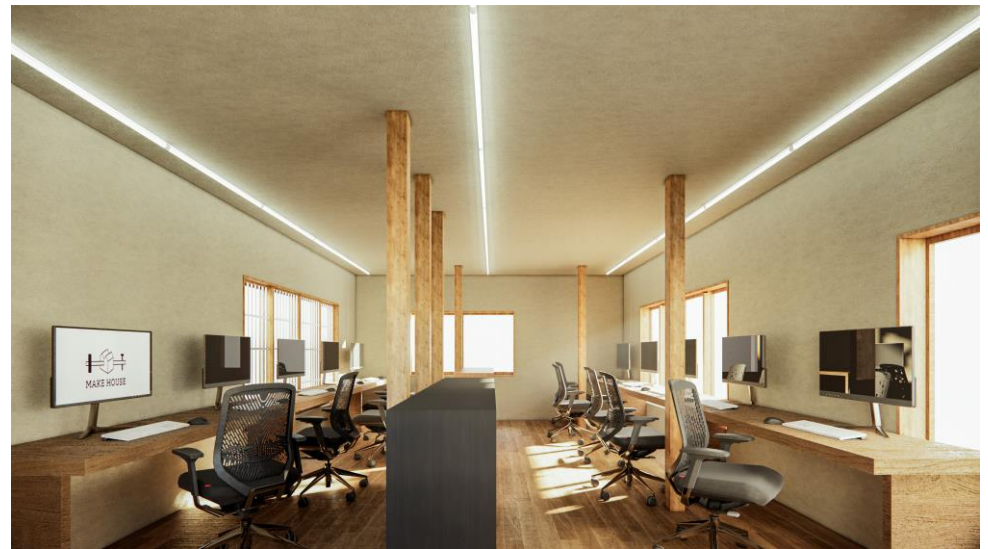
### 木造分野でのBIM導入状況



# 【②BIM事業】 BIM/CADセンターの設立

BIM事業の拡大に向けて新拠点となるBIM/CADセンターを開設予定(2021年6月)

## BIM/CADセンター



## [③R&Dセンター]

- 木構造の基礎研究を目的としてR&Dセンターを設立予定
- 国産材の利用率向上や、大規模木造建築の引き合い増加に伴う接合部の開発強化、SE構法のシステム強化をおこなう

### 実験イメージ



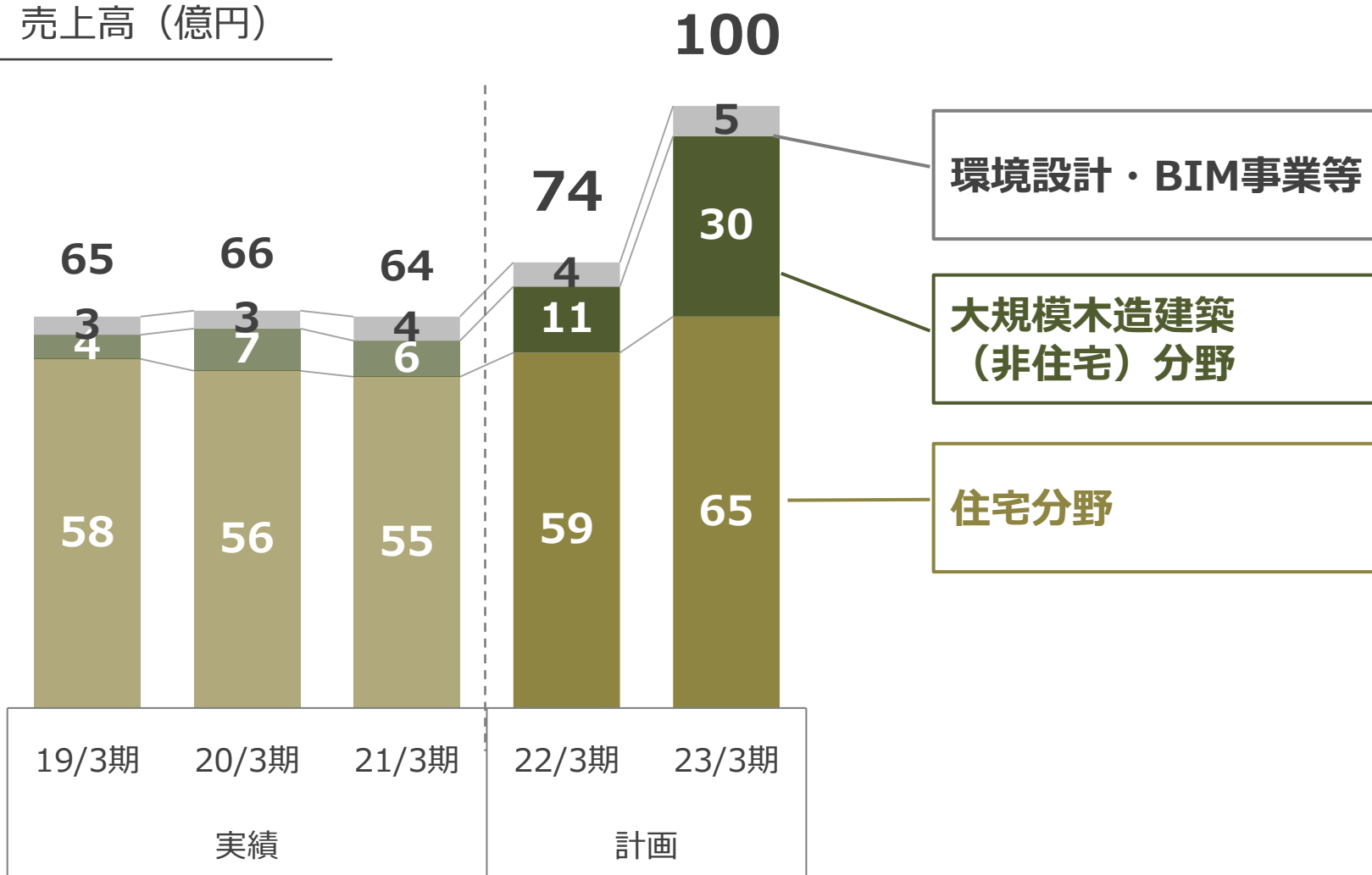
# 2022年3月期 通期連結見通し

(百万円)	22/3期 見通し	21/3期 実績	増減	増減率
売上高	<b>7,365</b>	6,431	+934	+14.5%
売上総利益	<b>1,938</b>	1,613	+325	+20.1%
販管費	<b>1,736</b>	1,330	+406	+30.5%
営業利益	<b>202</b>	282	△81	△28.6%
経常利益	<b>257</b>	323	△66	△20.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>200</b>	225	△25	△11.1%
年間配当金 (円)	<b>28.00</b>	28.00	-	-



# 中期計画（売上高）

売上高（億円）



# Stay Home at 耐震住宅

日本の  
家を  
100%  
耐震に。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

なお、本資料に記載した連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症やウッドショックの収束時期、その影響の範囲等は大きく変動する可能性があります。当社グループの業績に影響を及ぼす事象が生じた場合には速やかに公表いたします。

(本資料中の画像について)

本資料中の画像には、実物の写真のほか完成イメージ図が使用されています。